

前回の議論のまとめとその対応

【科学のみにとどまるのではなく、人文・社会・芸術・環境などともつながる伝え方について】

| 意見要旨 | 対応 |
|--|---|
| 「総合ミュージアム」といいながら、サイエンスだけを集めて、サイエンスにとどまっている科学館のように見える。「総合」というのは、人文社会や芸術など多分野とのつながりも見据えたもので考えるべきではないか。 | 第1回修正資料 P4「海洋・地球の科学的知見を土台に、海との関わりを広く学べる場を提供する活動」を加えました。 |
| 海洋文化というからには、日常的な人との関わり、歴史的な海と人の関わりといったこともつなげて見せたほうが、サイエンスだけの場合と比べて、間口が広がり、より多くの人に伝わりやすくなるのではないか。 | |
| 地域文化、歴史などつなげるという考えは、なるほどと思った。しかし、あまりいろいろなことを限られた空間に詰め込むことで、性格がはっきりしなくなることも心配。 | |
| 文理を混ぜて教育するということが必ずしも良いということではなく、文理両方を学びあうという「文理複眼」というほうが適切と感じる部分もある。 水産教育の科学を教える上でも導入には、人間は古代から魚をどのようにとってきたのかという歴史から入る。いわゆる「海洋学」というものも、文理両方の要素を持っている。 こうしたことも踏まえ、高田会長の指摘を考えてみると、この施設においても、導入部分では、ある程度、人文的な要素が必要になってくるのではないかと感じた。清水にも海と関わる歴史はいろいろとあるので、サイエンス以外を排除するのではなく、そういうところで広がりを持たせることは大事だと思う。 | |
| 来館者がミュージアムで感じる間口を広げる観点、子供たちへも海があらゆることとつながっているという総合的な教育を図る観点から、科学のみにとどまるのではなく、人文・社会・芸術・環境などともつながる伝え方をしていくことは、重要であり、基本計画の中で強調していく必要がある。 | |

【施設・外の施設やフィールド、関係者との連携について】

| 意見要旨 | 対応 |
|---|---|
| 大学の研究所に併設された水族館を拠点に、瀬戸内の海を文理横断的、総合的に学べるプログラムを周辺の博物館や企業と連携して実践してきた。この施設でも、展示コンテンツ自体はサイエンスを中心とした場合でも、周辺と連携することで、そうした広がりある活動ができることを「総合ミュージアム」として期待したい。 | 第2回資料 P12「清水港をフィールドにした施設の魅力的・持続的な運営イメージ」を示しました。 |
| 博物館という場が、特定の分野の教育に留まらず、全人教育につながる活動ができることが大事だと考える。「総合」ミュージアムというところで、そういうことを意識して実現に近づけてほしい。 | |
| 多分野と連携した教育活動はとてすばらしいと感じたが、続けていくためには、教育委員会、学校教育等と連携していく体制も重要だろう。 | |
| 歴史などもサイエンスと並列して展示していくのではないかとイメージがあった。フェルケール博物館などとの連携も踏まえながら、どんな伝え方をしていくか考えていくことが大事だと考える。 | |

前回の議論のまとめとその対応

資料 1 - 1

【海洋産業にどう関わるかについて】

| 意見要旨 | 対応 |
|--|---|
| ミュージアムが担う役割の中に、「海洋をテーマに産学交流を図り、新産業を創出する」「海洋教育を推進し未来の海洋人材の育成を図る場」ということが書いてあるが、今までの説明資料を見た内容だと、それがどう具体化しているのか感じられないのだが、そこについて具体的にどういった活動をしていくのか示してほしい。 | 第1回修正資料 P2のように、「産学交流」を図り、間接的に支援することを示しています。 |
| ミュージアムが「海洋産業の創出」「海洋人材の育成」などにどこまで関われるかは、誤解を生まないように表現を整理する必要がある。 | |

【事業化を意識した基本計画の内容について】

| 意見要旨 | 対応 |
|--|---|
| 今後、PFI 等、事業者を募って事業化をしていく想定の中で、基本計画でどこまでを固めるのか。あまり細かいことを決めすぎて制約を増やすと、事業者が手を上げにくくなることも考慮すべきではないか。 | 基本計画は考え方、要点を示し、イメージや手法は例示である旨記載し、事業提案の自由度に配慮した構成としています。 |
| 事業の工程が気になるが、事務局の説明では、基本計画でこの施設の内容を決めていったときに、事業的には別途 PPP 導入可能性調査をしているということだと、基本計画で決めても、参画意向のある事業者がそれはできないという話にならないか心配である。 | |

【デジタルの活用やエントランスの演出等について】

| 意見要旨 | 対応 |
|-------------------------------------|--|
| ・エントランスなどを含め、デジタルに頼りすぎているという印象を受けた。 | 第1回資料 P13を「エントランス」に、第2回資料 P7「映像シアター」は「柔軟な活用」としました。 |